

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591-1		
自己評価作成日	平成 31年 1月 18日	評価結果市町村受理日	令和1年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 31年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者一人一人が自分のペースでゆっくり、楽しく生活されるように、入居者の気持ちを良く聴いて支援している。 ○毎月ピクニック(三社参り、旭が丘公園花見、庭木ダム花見、大村花菖蒲園、武雄ゆめタウン、芸能フェスティバル、のみの郷紅葉、こすもすロード武雄東川登町、嬉茶楽嬉野等) ○地域の方との「落語会」や「AEDの講習会」を開催。 ○書作、カラオケ、かるた、リハビリ体操、廊下の往復運動、計算ドリルなどの日中活動。 ○毎月の写真入りおたより。 ○カラオケ、民謡、オカリナなどの慰問に来ていただく。 ○地域の小学生との交流。 ○毎年地域のグループホームと運動会、レクリエーションで交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿島市の昔ながらの住宅街に位置しており、近所の方からおすそわけをいただくことも多いなど、地域との交流も深められている。毎月、外出行事を計画されており、行事やホームでの様子などを写真に撮り、入居者一人ひとりに編集したお便りを作成し、毎月家族へお便りを送付されており、入居者がどんな様子で過ごされているか分かるよう、きめ細かい配慮なされている。また、開所当時から勤続されている職員が多く、職員に対しても働きやすい職場であり、落ち着いた雰囲気の中、入居者のペースに寄り添った介護を実践されている。ホームでは毎月防災訓練を行い、地域の施設や病院からも緊急時には協力を得られるよう、協力体制を築き、入居者の安全を第一に考えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時や毎月のミーティングの中で職員みんなで、理念を共有して、実践につなげていくようにしている。	職員の目につきやすい場所に理念を掲示されており、職員一人ひとりが理念を共有し、入居者のペースに合わせた介護を実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班での月一回の溝掃除に職員が参加している。近隣のかたから野菜をいただいている。入居者は、運営推進会議に数人参加され、避難訓練の時に隣保班の方や、消防団の方と話しておられる。	地域の方をホームの行事に招いたり、ホームで地区の行事開催の支援をするなど、地域と「持ちつ持たれつ」の関係を築き、ホームも地域での役割を担われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年公民館でAEDを利用した救急蘇生法を、消防署員より、地域の方と職員と共に講習会を開き、受けている。落語家さんによる落語を、公民館で年に1回、地域の方、入居者に聞いてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会会長、民生委員、消防団、地域包括支援センターの方々や入居者、職員でホームでの状況を報告し、今後の街づくり、非常災害時、避難訓練、浜地区の方々の状況、介護保険制度、成年後見制度など話し合い、意見を基にサービス向上に努めている。	参加者へホームの状況を伝えたり、認知症や介護保険等についての勉強会を行うことで、参加者にホームに対しての意識を高めてもらい、そこでの意見や話し合いの結果を入居者へのサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二か月に一回の運営推進会議の開催に向けて話し合ったり、鹿島市役所での「認知症声かけ体験」に職員がボランティアで参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。	鹿島市で行われる行事等にホーム職員がボランティア参加をしたり、運営推進会議の介護保険制度などの勉強会への講師依頼をお願いすることもあり、お互いに協力体制を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待の研修会に参加し、職員で話し合いながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッドから滑り落ちそうな方は、家族に説明し了解を得て四点柵をしていたが、現在は必要がなくなった。	職員の詰め所に身体拘束防止のマニュアルを設置されており、いつでも身体拘束防止についての確認ができるようにされている。また、定期的に外部の身体拘束防止の研修に参加されており、月1回のミーティングの際に研修内容の発表を行うなどして、職員間の共有が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者への虐待がないように努めている。入浴の際は、体全体傷やあざがないかよく観察し、入居者からそれとなく聞いたりして、虐待を見過ごしていないか注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会があり、現在も利用されている方もおられる。専門(司法書士)の方に成年後見制度についても聴き、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を見ていただきながら、説明をしているが、不十分な点は、その都度説明したり、話を聴いたりし、家族の不安や疑問点が出来るだけ少なくなるように職員と共に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時、受診の付き添い時などの時間を利用して、意見、要望を聴くようにしている。またおたよりで入居者の様子、ホームの考え方を伝えたりしている。	各月で家族会を開催する等、家族が意見を言いやすい環境整備に気を配られており、あまり家族会の頻度が多いのも負担になる可能性があるため、3ヶ月毎にすることも検討されている。職員から家族へ積極的に意見を聞くように心掛けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見があったときは、随時聴くように心がけ、代表、管理者、職員全体で話し合う機会を設けている。	急な休みなども職員から言い出しやすく、有給休暇も消化しやすい環境を整備されている。管理者が指導をする際にもまずは職員の意見を聞くように心がけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人、いろんな研修に参加し、向上心を持って働いている。それぞれの希望条件に合わせた勤務が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な種類の研修に参加、希望する研修にも出来るだけ参加できるように勤務表に入れてある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会、鹿島、多良、塩田から数か所集まり、毎月の勉強会や入居者合同の運動会を開催している。毎年、事務局を交替し、取り組みたい内容を話し合いで決めて実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その人らしさを大切に、ゆっくり一緒に楽しみながら、安心して話をしやすいように、傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分に取り、本人家族の思いを受け止め、職員で共有している。「明るく、楽しく、元気よく」を大切にこころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療と看護、介護の情報共有を図り、支援を見極め、家族の安心信頼構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしたり、歌を唄いながら楽しく洗濯物を畳んだり、テーブル拭き、新聞折など一緒にしておられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会への参加、月1回のホームでの様子、行事等をお便りにして報告している。また、面会、受診に来られた時は、笑顔でお迎えし、話しやすい環境に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方々によるカラオケ、民謡踊り、オカリナ、尺八等の慰問の来訪や、伝承芸能見学、受診後に近所まで出かけることもある。	馴染みの美容室や病院への訪問支援や外部のマッサージの受け入れ等を行い、入居者の要望を大切にしながら、馴染みの関係が途切れないよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いっしょに歌を唄ったり、風船バレーに参加して、皆さん楽しめる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入院先を訪問したり、たまたま、街中であった時等、近況を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の本人との会話により、何を一番望んでおられるか把握に努めている。うまく伝えられない方に対しては家族とも話しあって意向把握に努めている。	意向を伝えることが難しい方に対しては、本人の意向を家族や職員間で常に考えながら、意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人からの聞き取りを行い担当ケアマネからの情報収集、家族にこれまでの生活歴や暮らしぶり、病歴、性格などを聴いて把握に努めている、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅とは違った生活になっているため心身の変化や現状の把握を行い、これまでの生活が維持できるようケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ることを中心にプランを立てている。また、介護計画を常に確認し見直しを行っている。	介護計画の作成の都度、アセスメントを把握し、その時の入居者の状況にあった介護計画が立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は申し送りや記録等で共有し、誰もが分かりやすいよう記録を行い、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、臨機応変に対応しているが、サービスの多機能化には至っていないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開き、地域の代表者の方々と話し合いを踏まえて、その人らしい生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の体調に気を付け、受診時家族の方に報告し、かかりつけ医による適切なアドバイスを受け、その人の健康に気を付けている。	他市のかかりつけ医への受診の支援も行われており、協力医療機関以外のかかりつけ医への受診支援も継続して行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で、自分たちの目と気づきを大切に、異常があった時訪問看護師に連絡を取り指示を仰ぎ対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたとき、代表、管理者が医療関係者と連絡、話し合いを行い、職員はサポートに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については「グループホームでの介護ガイドライン、終末期・看取りに向けて」を作成して、話し合いを行っている。	入居時に重度化した場合の説明をされており、症状が重度化した場合には、その都度、家族に確認を取られている。現状では看護師が常勤していないため、できること、できないことや、主治医の往診協力がどの程度行われるかを総合的に考えながら家族の思いに寄り添った支援をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急訓練やAEDの操作訓練を毎年実施して、とりくんでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1度の利用者の避難訓練、年1度の地域の隣保班の方、消防署、消防団の方たちにお問い合わせの避難訓練、また、水害等自然災害に備えて、非常食を用意しての訓練を行っている。	毎月、避難訓練が行われている。水害等を想定して近くの病院への避難訓練も実施されており、緊急時の受け入れ依頼もなされている。その他、年に1度は地域の方や消防団に協力を得て避難訓練も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけする時等プライバシーの確保が必要な時は耳元で話したり、他者と距離を置いて話しかけている。	入居者の突然の立ち上がりなど、行動から本人の意向を察知するよう日頃から心掛けられており、排泄時の声掛けなどは本人の耳元で声掛けするよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ時等申し出があった時等、すくに応じ、耳元で排尿なのか排便なのか聞きトイレの一連の動作の介助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示のできない入居者が多いので、短い言葉や動作(ジェスチャー)等を見逃さないようにして支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等本人に着たい洋服と一緒に選び鏡を見せて髪の毛を整えるなど自分で行う人にはしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢者が多く食材の原型がともなわないうため苦慮している。しかし、口にしてる野菜の名前などの説明を行っている。	宅食サービスを一部利用し、職員が入居者と関わる時間を確保されている。地域の人からいただく旬の食材を使って数品をホームで調理し、入居者の好みを反映し、食事を楽しんでいただけるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量を確保して、言葉かけを行いながら、水分量なども確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は義歯の洗浄など介助をおこなったり言葉かけを行い最後まで見守ったり介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄時間を把握しそれに応じて言葉かけ支援している。	入居者一人ひとりの排泄パターンを職員が把握しており、入居者のペースに合わせた、声掛けや排泄介助を実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足にならないように体操に参加してもらったり、歩行運動にも付き添っている。また、フルーツヨーグルト等でも便秘に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	間隔が離れすぎないように気をつけて、楽しく入られるように話をしたり、歌を唄ったりして対応している。	特に入浴日は固定せずに毎日数人声掛けを行い、入居者のペースで入浴をしていただいている。冬場などは入浴日の間隔が人によって空きすぎないように、職員対応等で工夫をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	脚の浮腫が有られる方は昼から臥床又はクッションなどを用いて安心して休息できるよう様子を見ながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まずは誤薬がないように一人一人の名前を確認し、また、体調を見ながら服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を唄ったり手作りおやつをつくって提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1度のピクニックや、希望された方には買い物等の付添いにも努めている。	月1回の外出行事の他にも、希望者で近くまでドライブに行ったり、病院受診時に入居者の馴染みの地域でお花見をして帰ってくるなど、日常的に入居者に応じた外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があった時には一緒に買い物に行き預かったお金を渡し払っていただく。あとで現金出納帳に記入していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様がしたいと言われた時、電話等は職員がかけ代わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を、廊下等には本人様の書作や作品等を飾っている。	食堂には季節の行事の飾り付けがなされており、季節を感じることのできる空間となっている。ときどき模様替えをしたりして、日々居心地のいい空間づくりに取り組まれている。温度や湿度計のついた時計を設置しており、入居者が快適に過ごせるよう気を配られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の中に畳を置いたりソファを置いたり自由に過ごせる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真を飾ったり、ご本人が前から使用されているものを置いている。	基本的に持ち込みに制限はなく、お仏壇など持ち込まれている。お線香などは火事防止のため横に倒すものを提案し、入居者が安全に落ち着いて過ごせるよう配慮なされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の日々の身体状態に合わせて家具の配置等を考え、出来ることはしていただき、見守っている。		